



てこられたのでしょうか。
◆西村 齋王代のお話をいただいでから時間を置かず御禊の儀があったのですが、神事ですので当日までは練習などは何もないのです。母親からは、まず気持ちをしっかりと持つことをアドバイスされ、健康管理な

ども含めていろいろ教えてもらいました。天皇家のお嬢様やお孫様の代理でご奉仕するのが齋王代ですので、気持ちを落ち着け、りんとした表情で、しっかりとお役目を果たすということ、御禊の儀などの前儀から本番当日までの期間中、ずっと心掛けてきました。
◆所 五島先生は、祇園祭に触れられ、宮廷文化と切っても切れない関係があるという指摘でしたね。
◆五島 祇園祭の起源は平安時代にさかのぼります。その後南北朝時代ごろになって、山鉾が登場し、町衆たちが受け継いできた祭りです。室町時代になりますと天皇や上皇、将軍も祇園祭の山鉾を見物したいと希望されるようになります。そんなときは下京の町の人たちが山鉾を、御所のある上京まで曳いて行ってお見せしたそうです。天皇は、それを



見るためにわざわざ皇居の築地塀を壊されたとのエピソードも残っています。
◆所 坂本さんからも、多くの有志と活動をして来られて気づかれたこ

術館には、江戸時代前期に在位した東山天皇のご即位の様子を描いた屏風や、徳川家康の孫で、後水尾天皇に入内し、朝廷と武家を結ぶ役割を果たした東福門院（徳川和子）の像などが展示されました。
 東京の皇居で行われた今上天皇の

◆所 西村さんは、お母さまがご奉仕なさったところと、今回を比較して若干違ったところもあると言われま

文化の中心地は京都

即位礼では、現在も京都御所紫宸殿



にある高御座を使いました。即位礼の会場模型が並ぶ会場にありますと、高御座を分解し、空輸して皇居の会場に運び、即位礼が終わった後には京都に戻されたというエピソードを思い出し、皇位継承という儀式が一目でよく理解でき、整然と儀式が進む様子が思い浮かぶので、悠久の時間を一瞬で飛び越えるような感覚になります。来場者の方も、ここにいるとすごく気持ちが安らぐとおっしゃる方がおられます。
 皆さん、連綿と続く皇室の長い歴史そのものに感動されるのではないのでしょうか。



大変貴重な超国宝級の古文書や古絵図などが収蔵されています。毎年10月下旬から11月上旬にかけて虫干しも行われますが、「勅封」と言いまして、天皇のお許しがなければ開けることができません。奈良の正倉院も同じ制度で管理されています。



その東山御文庫の収蔵品を一般に公開することは不可能ですが、その複製品やデジタル画像などを広く見ていただける機会を作っていただけなら、ありがたいと思っています。あの15代将軍から明治天皇に大政が奉還された翌年（1868年）、



「明治」と改元されてから再来年（2018年）で満150年となります。その明治元年3月、明治天皇のもとで新政府の基本方針「五箇条の御誓文」が発表されました。その誓約儀式は、京都御所の紫宸殿に天神地祇を祀り、明治天皇の前



と等、何か補足がありましたらお願いします。

◆坂本 私たちは、所先生にもお越しいただいて、双京構想の勉強会を行ってまいりました。双京構想の進んについてまだ具体的に活動しているわけではありませんが、今後、何



かお手伝いできないかと考えているところです。

◆所 京都御所に御物（ぎよぶつ）の図書館があることをご存じでしょ

明治改元から150年を機に新展開を

極めて個人的な意見を述べることをお許しいただきたいのですが、私は天皇陛下に京都へ戻ってきていただきたいと思っております。これは京都のためだけではなく、日本の国の在り方として重要なことです。経済・政治は東京が中心ですが、文化の中心地は京都が担うというのは極めて自然の流れではないでしょうか。もし双京構想が具体的に進むようであれば、大事なものは国民、とりわけ京都市民が皇室の方々に対して「ぜひお戻りください。喜んで歓迎します」という気持ちを表すということです。思っています。

うか。正式には東山御文庫と申しませす。ここには皇室に代々伝えられる